

## 簡易精神機能検査 (MMSE) と長谷川式スケール (HDS-R) の同時測定法の試みと意義

MMSE より 4 単位引いたものが HDS-R !

MMSE で 13 点は HDS-R は 4 から 15 にわたっている !

偏差を持つケースを拾い出すと、HDS-R にて最後の 2 行がほとんど 0 !

H/M 比 0.7 以下はアルツハイマー型認知症が圧倒的に多い !

最近、介護保険に介護予防給付が付けられ、特に軽度認知症 (MCI) の早期発見が一般外来でも要求されている。

世界的には簡易精神機能検査 (MMSE) が最も多く使われているが、日本では以前より長谷川式評価スケール (HDS-R) がよく使われている。

両者は 1975 年に報告されたが、HDS-R は 91 年に改定された。両者とも 30 点満点である。このため、報告を見ても日本では両者が混同されて使われており、外国のデータなどとの比較が難しくなっている。

そこで世界的にいかに使われているかについて、約 10 年間の論文報告の中に使われた頻度を EntrezPubMed にて調べた。

MMSE が 1900 件に対して、HDS-R は 30 件で 1.6 % に過ぎず、日本以外にはほとんど使われていないといえる。

しかし、日本では厚生労働省の基準などにも使われており頻度も高い。

そこで MMSE と HDS-R の同時測定法を開発して検討した (表 1)。

図 1 は MMSE と HDS-R の相関を調べたものである。

図 1 簡易精神機能検査、MMSE と HDS-R の相関性

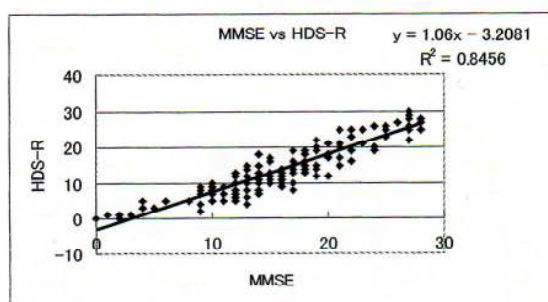
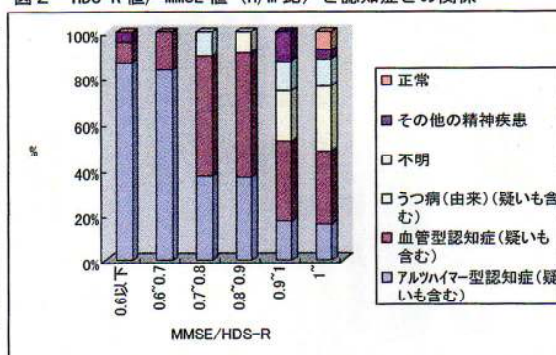


図 2 HDS-R 値 / MMSE 値 (H/M 比) と認知症との関係



ここでは横軸に MMSE、縦に HDS-R を取ったが、このように 5 以上 30 点まではほぼ直線的に相関した。

この線の直線の部分は  $Y = 1.1 X - 4.1$ ,  $R^2 = 0.84$  という値を得た。

すなわち y 軸の交差は 4.2 で、簡単には MMSE より 4 単位引いたものが HDS-R となる。

しかし相関係数が 0.84 というのは偏差が相当あることを意味し、MMSE で

13 点は HDS-R は 4 から 15 にわたっている。

そこで偏差を持つケースを拾い出すと、HDS-R にて最後の 2 行にある記憶力のテストがほとんど 0 という結果となった。

そこで HDS-R 値を MMSE 値で割った H/M 比を 0.6 以下から 1 以上まで段階的にとり認知症の種類との関係を検討した (図 2)。

これによると 0.7 以下はアルツハイマー型認知症が圧倒的に多く、0.7 以上になると血管型認知症が増えていた。すなわち、この H/M 比をとることにより、アルツハイマーの診断の補助になることが示唆された。

## まとめ

- 1 簡易精神機能検査 (MMSE) と長谷川式スケール (HDS-R) の同時測定法を考案して検討した。
- 2 両者は直線的に相関した。
- 3 世界的には簡易検査法の大部分が MMSE となり、わが国でもこれに統一すべきである。
- 4 HDS-R/MMSE 比よりアルツハイマー型か血管型認知症かの区別の可能性を示した。

(東京保険医協会 小口迪彦(内科))

(保団連医療研究集会記録集より)

(2010.6.5 全国保険医新聞 第 2477 号 p8)

## 私の感想

良い論文ですね。

著作権の関係もありますから、「表 1」は省略させて頂きました。

「H/M 比 0.7 以下はアルツハイマー型認知症が圧倒的に多い！」という指摘も斬新な指摘ですね。

小口迪彦先生とは面識はありませんが、相当な「切れ者」と感じた論文でした。